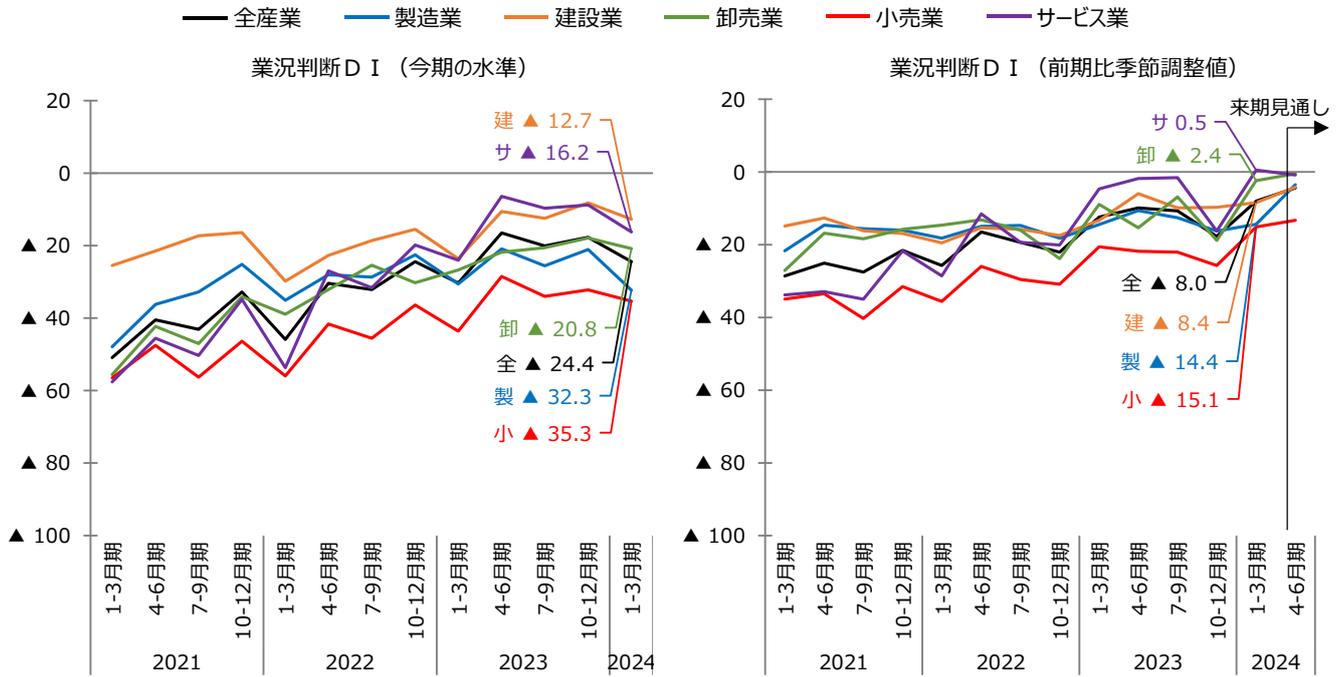


第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 関東



1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より6.7ポイント減の▲24.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

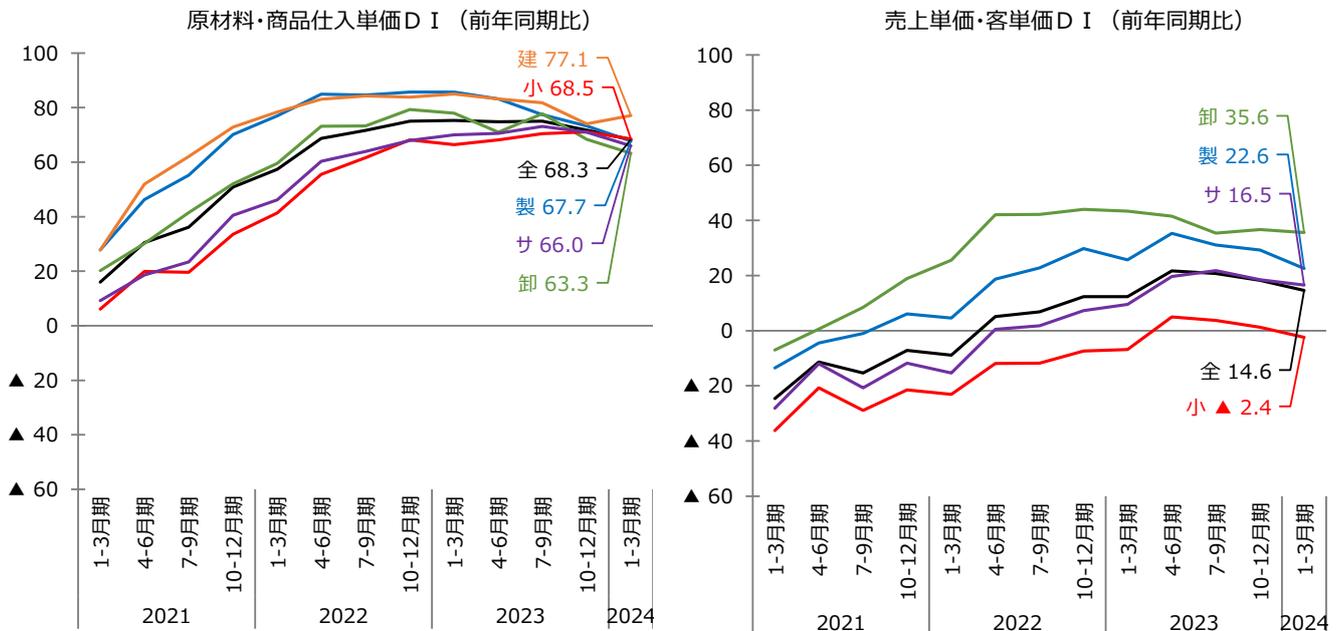


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年10-12月期）と比べて「好転」「不变」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.5ポイント減の68.3と2期連続して低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、製造業、卸売業、サービス業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.7ポイント減の14.6と3期連続して低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



※前年同期（2023年1-3月期）と比べて「上昇」「不变」「低下」で質問

※前年同期（2023年1-3月期）と比べて「上昇」「不变」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、関東：4,842企業

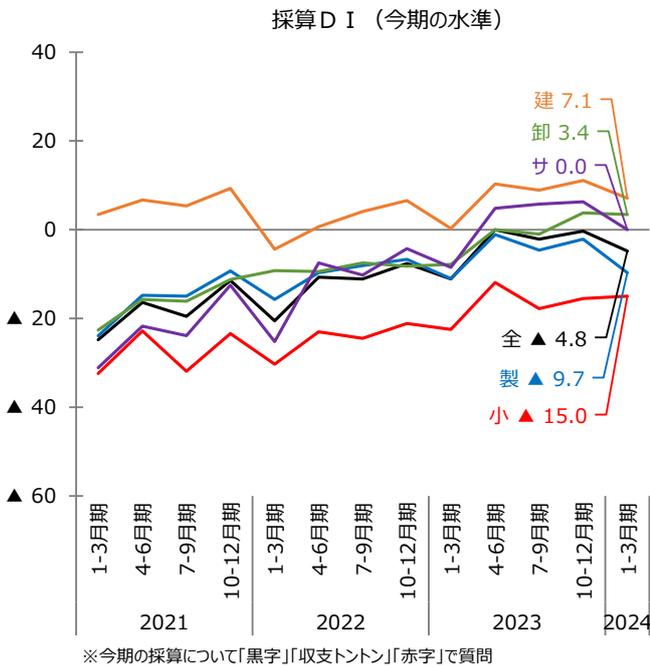
※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 関東



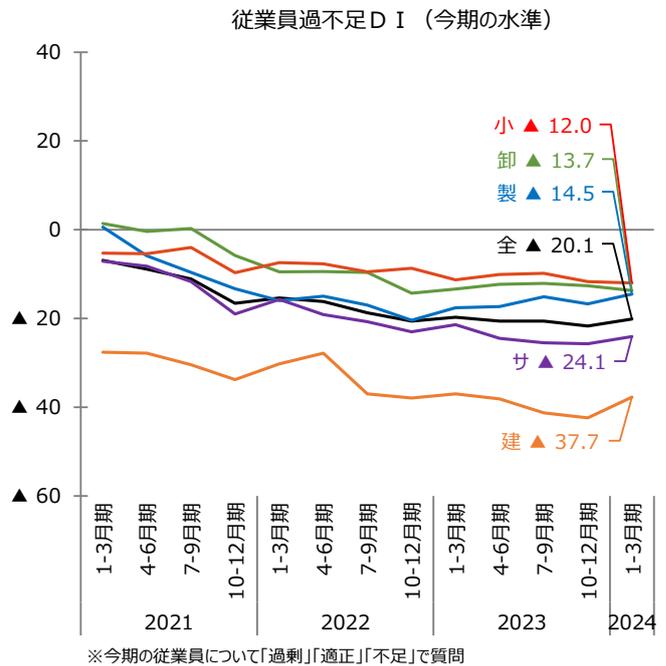
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より4.5ポイント減の▲4.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、製造業、サービス業、建設業、卸売業で低下した。



4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.6ポイント増の▲20.1と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、建設業、製造業、サービス業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。



5. 関東の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	原料の価格高騰がいつまで続くのかが気になる。相場に左右されない調達が求められる。今回の地震の影響はなかったが、BCPの見直しが必要。	製造業 米菓製造業
	材料の値上げや人手不足により、下請け業者の価格の値上げが見受けられる。また、熟練技術者の確保が困難で、単価を他業者よりも多く支払わないと確保できない状況である。	建設業 木造建築工事業
	粗利益率の低下、人件費比率の上昇が、収益下押し要因として、大きな課題と感じている。	卸売業 家具・建具卸売業
	前期よりも、売上金額自体は増加しているが、人件費や燃料費などの経費の増加や、コロナ時の借入金の返済などにより、業況が良くなったとはあまり感じていない。	小売業 その他の機械器具小売業
	昨年までの各種キャンペーン等が終わった影響が、秋以降の人の動きが弱いままである。年が明けて、2月頃から少しずつ回復してきた感じはあるが、人や物の値上がりの影響もあり、良い状態とは言い難い。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	4月より、原材料価格値上げが決定し始めている。価格転嫁の交渉を開始したが、原材料だけでなく、運送料や労務費の上昇分もあわせて値上げするつもりなので、難航が予想される。	製造業 ボルト・ナット・リベット・小ねじ・木ねじ等製造業
	新築の受注またはリフォームの受注があり、好転傾向にはあるが、逆に職人不足により、現場が回らない状況にある。また、能登半島地震復興による原材料の高騰も、懸念される。材料不足が、既に発生している。	建設業 大工工事業 (型枠大工工事業を除く)
	前年同時期と比較して、売上が伸びている。原因として住宅資材関係が悪い中、イベント関係材料と船舶向けが良い傾向なので、今後もしばらくは続くと思われる。	卸売業 木材・竹材卸売業
	コロナ禍が落ち着いてきたとはいえ、ライフスタイルの変化も生じてきていて、従来に比べて、購買意欲の低下を感じている。来期のペアでは、当面需要の喚起は望めそうになく、数年後に下げ止まれば良い。	小売業 陶磁器・ガラス器小売業
	長年据え置かれてきた運賃の値上げが、4月より、ようやく決定した。2024年問題との兼ね合いもあるが、単価だけでなく、売上総額も上昇する見通しである。	サービス業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。